

我が国における運動部活動と地域スポーツクラブの連携に関する一考察

A consideration on the cooperation between school sports club activities and community sports clubs in Japan

1K09B109-7 菅井 順平

指導教員 主査 友添 秀則 先生 副査 作野 誠一 先生

【序 章】

＜本研究の動機＞

我が国では、古くから学校教育の中での運動部活動という文化が継続されてきている。その中で近年では、学校教育の垣根を越え、地域のスポーツクラブで競技を行っている者も少なくない。筆者自身に目を向ければ、中学高校の6年間、地域スポーツクラブとは異なる意もあるが、運動部活動ではなくJリーグの下部組織で競技を続け、現在は大学の体育会部活動において競技を続けている。そうした経緯を踏まえ、我が国における地域スポーツクラブ発展の背景と運動部活動との関係性を明確にするとともに、今後のスポーツ教育がどう進んでいくべきか検討したいと思い、本研究のテーマを設定した。

＜本研究の目的＞

我が国における地域スポーツクラブ発展の経緯について、運動部活動の現状課題等も踏まえて明らかにし、相互関係の変遷から、今後どのような連携が必要とされるか考察を試みる。また、青少年スポーツ期に関わることなので、教育的な側面からも検討を行う。

＜本研究の方法＞

本研究は、総合型地域スポーツクラブや運動部活動に関連する書籍等から文献研究を進めていく。また、文部科学省や（財）日本体育協会における行政での取り組み・施策にも着目し、資料を精査する。

【第1章】 地域スポーツクラブ発展の背景

本章では、まず地域スポーツクラブの定義づけを確認した後、社会的変遷とともに地域スポーツクラブの発展の経緯を整理した。また、行政における地域スポーツクラブへの取り組みや施策について精査し、最後に地域スポーツクラブの現況と今後の課題についてまとめた。

【第2章】 運動部活動の現状

本章では、最終的に地域スポーツクラブとの連携について概観していくため、現代における運動部活動の課題等について明らかにした。まず、運動部活動への加入状況の変遷について調べ、部活動現場における指導者の現状について精査した。また、合同運動部活動

の現況について述べた後、部活動改革の必要性についてまとめた。

【第3章】 運動部活動と地域スポーツクラブの関係性

本章では、まず運動部活動と地域スポーツクラブの相互関係の在り方について分析を行った。そして、学校体育施設の利用や、外部指導者の導入など、代表的な連携策を取り上げ、最後に課題の共有化を基にした教育施策・地域施策についてまとめた。

【結 章】

本章では、本研究のまとめを行い、今後の展望について考察した。

運動部活動と地域スポーツクラブ、両者は多くのメリットを持つと同時に、様々な問題を抱えていることが見えてきた。ここでお互いが「協働」の理念の下、連携を図っていくことが今後のスポーツ教育にとって重要なことであろう。運動部活動の持つ「教育的価値」、地域スポーツクラブの持つ「競技性」や「生涯スポーツ」、これらすべてを獲得させる術を模索していく必要がある。ここで、運動部活動と地域スポーツクラブという概念に捉われず、広義で「学校と地域」という概念に転換させていく必要もある。そこには、互いの課題を共有するとともに、学校を含めた構成基盤で地域コミュニティを形成し、地域全体で「まちづくり」を推奨していくことが、この先望まれるであろう。

地域スポーツクラブは、その理念である「住民主体の自主運営」の下に展開していくことが求められている。また、運動部活動においても、「生徒主体」の部活動経営が求められている。現実の教師主導の閉塞的な部活動から、生徒主導の運営スタイルを確立していくことが、地域とも連動したスポーツ経営体として機能していくことになるであろう。運動部活動と地域スポーツクラブは、その枠を超え、学校と地域が日常的に交流し合う事業が求められている。我が国におけるこれからのスポーツ教育において、学校と地域どちらかの利益を追求した連携ではなく、双方が豊かになるための方策がこれから先、模索されていく必要がある。